

は分布し第三紀より現世に到るまでも繼續せし事を知るを得たり。(G. KOIDZUMI)

**小倉謙氏：帆柱石と稱する木幹の化石** (Y. OGURA: On the structure of "Hobashira-ishi" at Najima near Fukuoka, in Jap. Jour. Bot. Vol. VI. No. 2, pp. 173—190, t. 3—4. 1932).

日本古第三紀なる秋津統の暁新世の地層は獨り北九州にのみ發達するものゝ如し高島炭田の二子島累層を以て最も代表的のものとなす、北九州の暁新世の地層よりは從來唯 *Sabal nipponica*, *Lastraea japonica*, *Acrostichum hesperium* 等の化石植物を發見されしに過ぎざれども是等所生植物より推せば當時北九州は熱帶にも比すべき氣候なりしを知るべし。

北九州の暁新世の地層は多數の硅化木を包藏し松石の名を以て通稱さる、福岡市に近き名島の有名なる硅化木は帆柱石と俗稱され傳説を以て有名なり。著者は此帆柱石類の研究をなし *Quercinium Hobashiraishi* OGURA 及び *Phyllanthinium Pseudohobashiraishi* OGURA の二種を發見せり、前者は殼斗科のもの後者は大戟科の *Phyllanthoideae* のものなりと云ふ。

されば此地方に多き松石類の研究も進歩せば北九州の暁新世の Flora の狀も追々明になることである。(G. KOIDZUMI)

**ペルニツツ氏：Claytonia 及びヌマハコベ屬** KARL VON POELLNITZ: *Claytonia* GRONOV. und *Montia* MICH. in Fedde Repert. Spec. Nov. Regn. Veget. XXX (1932) pp. 279—325.)

著者は世界に産するスベリヒユ科の *Claytonia* 屬及び *Montia* (ヌマハコベ) 屬を調査したが、同氏に依れば *Claytonia* は31種、*Montia* は5種を産する。その内 *Claytonia* は嘗つて我千島に産すると云はれた事もあつたが現在不詳であるから、明かに本邦にも産する後者だけの檢索表をかゝける。

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1. 越年性。   | 2.                              |
| — 一年性。  | 3.                              |
| 2. 種子は甚だ強き光澤あり、莖は浮游性又は地上を匍匐す(歐洲、北米、南米、オークランド島)。               | 1. <i>M. rivularis</i> GMEL.    |
| — 種子は僅かに光澤あり、莖は多少直立す(歐洲)。                                     | 2. <i>M. limosa</i> DECKER.     |
| 3. 種子は光澤あり、枝は 25 cm. に達す、ヌマハコベ(歐洲、亞細亞東部、北米、亞弗利加、ニュージーランド、日本)。 | 3. <i>M. lamprosperma</i> CHAM. |

- 種子は殆んど光澤なし、枝は 10 cm. 以下。4.
4. 花冠の縁邊に二齒あるのみ(北米)。 4. *M. dipetala* SUKSD.
- 花冠の縁邊に五齒あり(歐洲、北米、中央亞細亞、シベリア、アフリカ、南極地域)。 5. *M. minor* GMEL. (J. O.)

**金平亮三氏：臺灣樹木の地理的分布** (林學會雜誌、第十四卷、第七號、456-473 頁)。昭和七年七月。

初めに臺灣の植物調査の歴史大略を記述し、次ぎに臺灣の樹木について、比律賓、支那、日本、日本及び支那、比律賓及び支那、馬來及び熱帶亞細亞の外、汎熱帶性樹木、濠洲及びアフリカ系其の他、の各項目に分つてその關係を述べられ、最後に附録として44頁に互る臺灣樹木の地理的分布表がある。 (J. O.)

**猪熊泰三氏：秩父演習林及其附近の木本植物豫報** (東京帝國大學農學部演習林報告第十四號 1-131, 1931): INOKUMA, T.: Preliminary notes on the ligneous plants indigenous in the Chichibu University Forest and its adjacent districts, in Bull. Tokyo Imper. Univers. Forests No. 14 (June, 1931) pp. 1-131.

秩父演習林及びその附近に産する樹木 292 種(變種を含む)について目録で検索表がついて居るので鮮明な寫眞圖版と相まつて一般林業家に取つても必要なものである。演習林の位置地形地質及び氣候、木本植物の概況、木本植物の總數及び數的關係、邦内各地との分布關係等の項目によつて演習林の概要も知る事が出來、更にアヲシラベ以下二十四種の分布上注意すべき木本植物が擧げてある。 (J. O.)

SKVORTZOW: **ウラチラストツク附近の沿岸に於ける海産珪藻類** B. W. SKVORTZOW: Marine Littoral Diatoms from Environs of Vladivostok [Philippine Journ. Science, Vol. 47, No. 1 (1932) pp. 129-150, 6 pl.]

日本海北部の珪藻に關しては今まで同氏の研究が植物學雜誌 (1929) 及び Philippine Journ. Science (1931) に發表されたのみである。之等の報告には總べて42種類が認められてゐる。今回發表されたものは1928年夏同氏によつて採集されたもので次の132種が記載されてゐる。

***Podosira montagnei* KÜTZING. *Hyalodiscus scoticus* (Kütz.) GRUNOW.**